

ポートフォリオ評価を生かしたプロジェクト学習

島根県加茂町立加茂小学校

1 基本的な考え方

(1)学校の概要

日本最多の銅鐸 39 個の出土で有名になった加茂町は、奥出雲の入り口にあり、「遊学の郷・加茂」として生涯学習を柱とした町づくりが進められている。本校は、一町一校区で町民の教育的関心は高く、平成 11 年度から文部科学省の「総合的な学習の時間」の研究開発校として地域連携を重点とした研究実践に取り組んできた。

(2)本校の教育目標

「豊かな心と自ら学ぶ意志を持ち、たくましく生きる子どもの育成」を目標に、思いやりのある子、すすんで学ぶ子、がんばる子、ふるさとを愛する子の育成をめざしている。

2 実践の内容

(1)研究主題 「ひとりひとりが生きる総合的な学習の時間の展開」

～ひと・ふるさと・せかいをテーマとして～

(2)研究のねらい

地域を活動の場として、地域の人とのふれあいを大切にした「総合的な学習の時間」の在り方を研究していくことで、身近なものに関心を持ち、進んで人と関わったり、自分で課題を追求し、広い視野で考えたり表現したりできる子どもを育てていきたいと考えた。

(3)「総合的な学習の時間」の基本的な考え方

「育てたい力」(自分で表現する力、自分で考える力、人と関わる力)を明確にし、教科等との関連を図りながら、学校全体計画「加茂プラン」に基づいた学習を進めるとともに、望ましい支援や評価の在り方について研究実践

に取り組んできた。

研究の視点

「価値ある体験」を取り入れる。

学習過程に応じた支援と評価を行う。

活動を振り返る場を大切にする。

ポートフォリオ評価

「ポートフォリオ」を活用し、振り返りや評価を大切にし、自分の成長を自覚できるようにしていく。自分に身に付いた力や考え方の変化等を自分自身で評価できるようにすることが大切である。

学習過程に応じた支援と評価

児童が主体的に取り組むプロジェクト学習における支援と評価については、学習過程に応じて次のような具体的な手立てを考えて取り組んできた。

課題設定場面

一人ひとりの興味関心に応じた体験の場を配慮し、体験の中から生まれた思いや願いをもとに自分のテーマを見つけていく。自分の願いをもとに、具体的に取り組んでいくゴールをきちんと設定しておくことで、目的意識を明確にしておく。

追求場面

子どもたち自身に「意志ある学び」の意識と「みんなで学習している」という共有意識を持たせるために、何のために活動しているかという「目的意識」、情報や成果を分け合う「仲間意識」を常に確認していく。

個々の追求の様子が全体に分かるように情報交換の場を工夫したり、お互いに活動を振り返ったり、更に追求を深めていくような中間発表会を設定したりする。

発表場面

相手や内容等に応じた発表方法の工夫ができるようにいろいろな表現方法を体験する。発表して学び合う場になるように工夫する。

凝縮ポートフォリオを活用し、自分で学習を振り返ることができるようする。

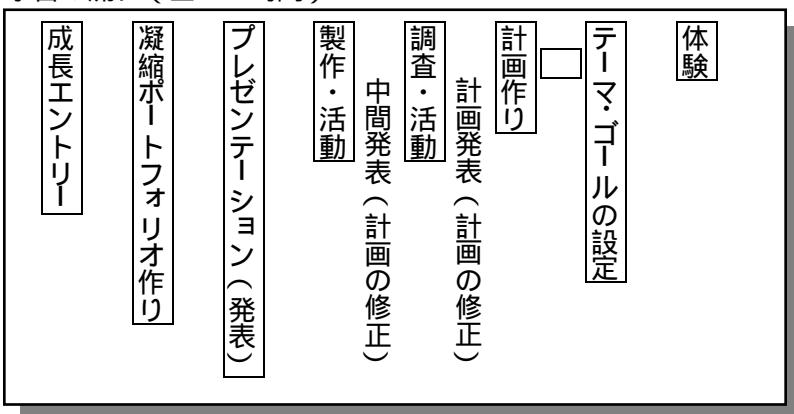
(4) 5年2組の学習活動（プロジェクト学習）

単元名「やさしい町加茂パート2～環境にやさしい町にしよう～」

ねらい

- ・より分かりやすい表現方法を工夫し、まとめて表現することができる。
- ・自分の思いや願いを生かした課題を見つけ、調査・追求の方法を自分で考えることができる。
- ・他と比べたり、地域の声を聴いたり、自己評価をしたりすることで追求を深めることができる。
- ・人との関わりの中で、地域の人の思いや願いに気づくことができる。

学習の流れ（全35時間）



学習の様子

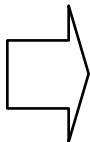
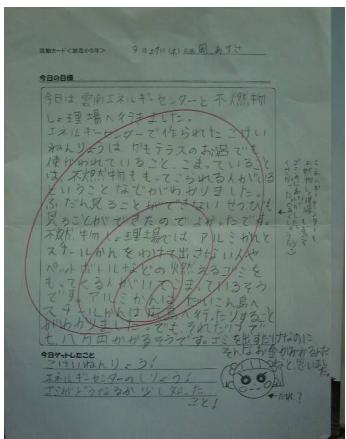
自分の思いや願いを大切にし、調査・追求の方法を工夫しながら課題解決していくような学習にするためには、振り返りや評価の時間を効果的に学習過程に位置付けていくが大切である。この単元では、「活動力カード」「計画ボード表」を使っての振り返りと自己評価、「計画・中間発表」における相互評価と他者評価を取り入れることにした。そして、学習の最後には、「凝縮ポートフォリオ作り」を通して自分の成長を自覚できるようにした。

活動力カード

毎時間後に、その時間の活動の記録と感想を書いてポートフォリオに綴していくようにした。活動力カードを残していくことは、学習の足跡を残していくことであり、児童が自分の学習の蓄積を実感するためのものである。そして、感想の中には、自分が気づいたことや分かったこと、思ったことの他に今困っていることなども書くようにし、児童一人一人の学習状況を把握することができるようにした。また、活動力カードの中に、簡単な自己評価の欄を作り、毎時間の自分の活動を評価するようにした。これにより、児童の学習

の満足感や進み具合が分かるようになり、個別支援をする上で役だった。自己評価の欄は、短時間ででき、児童が楽しんで書けるようなものにと考えた。

資料1 活動カード



資料2 ポートフォリオ

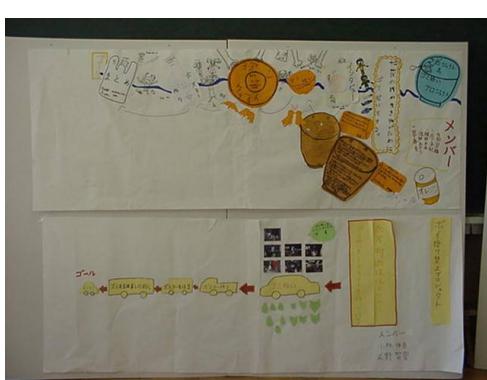


毎時間の活動の記録や感想をクリア
ファイルに綴していく。

計画ボード表

グループで立てた計画を模造紙大の計画ボード表にし、常時教室に掲示した。そして、活動が終わるごとに、その活動の中でよかったことや苦労したことなどをグループで話し合い、カードにまとめて写真と一緒に貼り付けていった。これによって、個人の気づきをグループで共有するとともに、一つ一つの活動の成果を確認しながら学習を進めることができるようになった。また、グループ同士の情報交換の場にもなり、他グループのがんばりや工夫が刺激となり、学習の活性化につながった。

資料3 計画ボード表



カードを作成し振り返る活動



計画・中間発表

学習過程の中に、計画や活動状況を発表し合う時間をもち、児童相互に評価し合い、お互いの活動の良さを認め合いながら、さらに自分達の活動を見直し、よりよく計画を修正していく機会とした。また、グループ間だけではなく、同じような取り組みをしている学校の活動を紹介し、新しい調査方法や表現方法に触れる機会とした。

中間発表会



さらに、役場の環境係の人やボランティアグループの人に発表を聞いてもらい、グループごとに評価をもらった。地域の人からの評価によって、自分達の活動の意義を改めて自覚することができ、自信がもてるようになった。また、足りないことを指摘してもらったり、アドバイスをもらったりすることで、視野を広げることができた。

例えば、ごみの少ない加茂町にしようとするグループに、ごみを減らすためには、ごみ 자체を減らす方法と、ごみを再利用していく方法があり、両面から考えていくことの大切さをアドバイスしてもらった。また、川の汚れを調査しているグループに加茂町だけの調査ではなく、もっと範囲を広げ、源流から河口までの調査が必要あることをアドバイスしてもらった。

役場や地域の方からのアドバイスや評価



凝縮ポートフォリオ作り

活動の中で自分が気づいたことや分かったこと、考えたことなどを「活動カード」に書いてポートフォリオに残して行き、学習の最後にそれを使って自分の活動を振り返る時間をもった。学習の中で書き綴った活動カードを読み返し、今までの学習を振り返り、新しい気づきや発見した場面や自分の考えが変わった場面、苦労したところなどを視点に大切なものを選び、A4の紙2枚にまとめた。紙面が限られているので、どれを書いていくか悩みながらまとめることになり、児童の思考をさらに深める機会となるとともに、自分の学習の成果や成長を見つけることができるものとなった。

凝縮ポートフォリオの作成



(A4で2枚に“凝縮”)



3 成果と課題

(1) 成果

ポートフォリオを活用することにより、自分の活動の足跡を振り返り、見通しを持つとともに、意欲と自信を持って取り組むようになった。

プロジェクト学習により、具体的なゴールめざし、目的意識をはっきり持ち、自分で計画を立てながら主体的に取り組めるようになった。

人と進んで関わったり、思いや願いを工夫して表現しようとしたりするようになった。

(2) 課題

活動カードやポートフォリオ等から一人ひとりの活動状況を適切に把握し、支援に生かしていくために、子どもの学びを見とる教師の力量や評価の方法や手段について今後更に工夫していきたい。

(同校教諭 若槻 徹、内田尚孝)